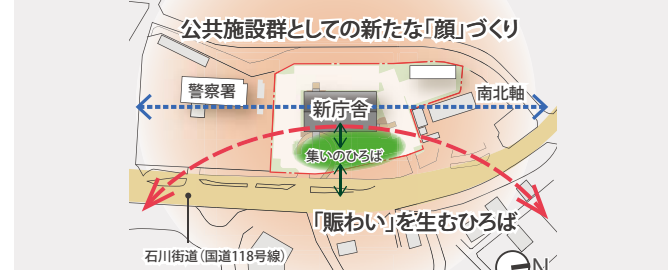


# つど 桜の谷の 集いの庁舎

一町のみんながいつでも集まる家のような庁舎をつくります

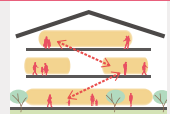


国道118号線は、石川街道として、昔からこの町に「ひとやもの」の交流をつくり出してきました。この歴史ある石川街道に面して町民が集える広くて快適な家のような庁舎を計画します。街道に面して庭のような広いひろばとリビングのような開放的な町民ラウンジを計画して、いつも賑わいが町にあふれるみんなの居場所をつくります。

## 3つの基本コンセプト

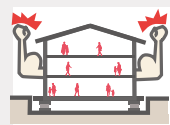
### 1. 大きな屋根の下は温かな居場所

大きな屋根の下に、「協働の場」をつくり、様々な町民の活動と交流を支える、「まちづくりの中心」をつくります。



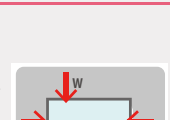
### 2. 町民を守る「安心・安全」な庁舎

災害時には町民をまもる岩として、十分な耐震性とライフラインの確保を計画し、災害直後からの迅速な活動を可能にします。



### 3. 庁舎を中心においたわかりやすい計画

国道に面する東側に緑豊かな「集いのひろば」を計画し、視認性が良く、庁舎全体がわかりやすい計画とします。



自家用車での来庁が多い町民に対し、四方どこからでもアプローチが可能な入りやすい計画とします。



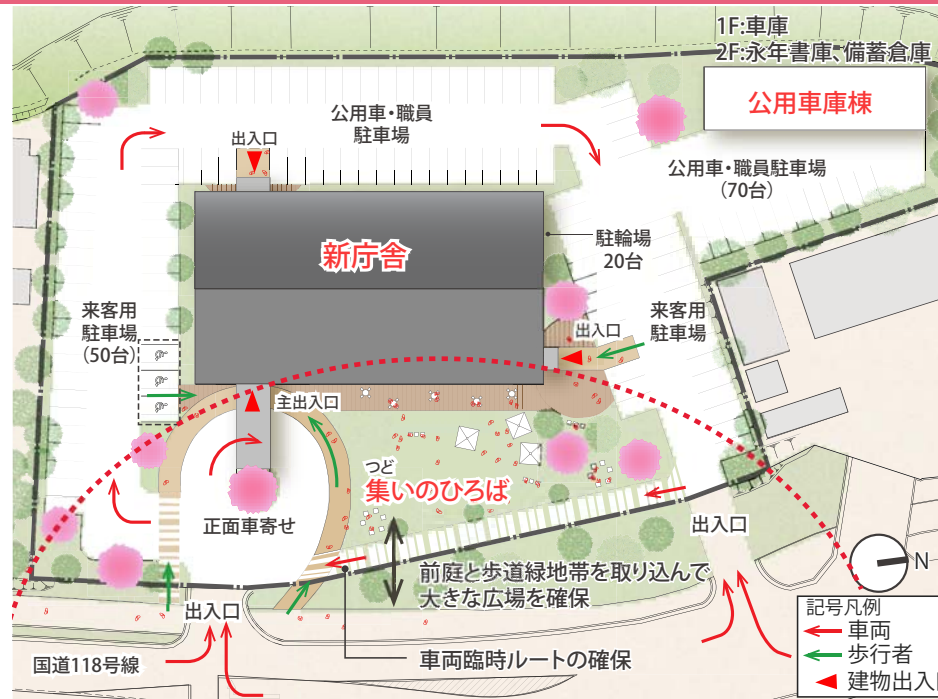
■図1:3つの基本コンセプト【A基本事項①】



■図2:新庁舎外観イメージイラスト

## 配置計画 一町民・行政・地域を結ぶ配置計画

- 隣接する警察署などのまちなみを重視して、新庁舎は南北に長く国道から正面性を持つ配置とします。
- 国道に面して広いひろば「集いのひろば」を既存の緑地帯と一体となるように計画し、様々なイベントができ、公園のように人々が憩えるオープンスペースを計画します。
- 駐車場は新庁舎を取り囲むように配置して、庁舎にどこからも近くアプローチできる使いやすい配置計画とします。
- 庁舎正面に車寄せを計画し、わかりやすいアクセスとすると共に、歩車分離が明確な来庁者の安全に配慮した計画とします。



■図4:配置イメージスケッチ

### ■検討案A: 庁舎前面をひろばとして計画



### ■検討案B: 庁舎前面を駐車場として計画

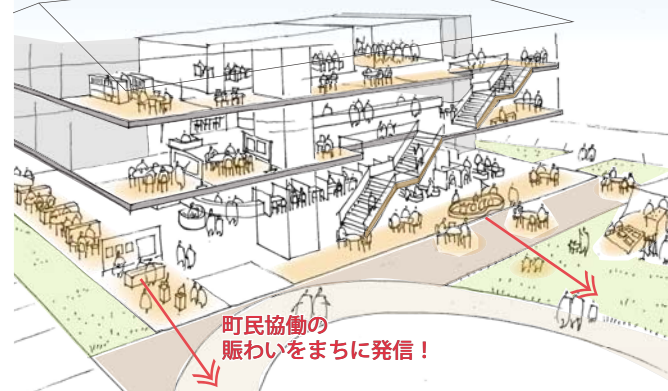


■図3:配置比較検討

## 平面・断面計画 一日常と緊急時の機能性を両立する平面・断面計画

### 階構成:使いやすい3階建て低層庁舎

- 1階は、町民利用の多い窓口部門を集約します。災害時は、町民の一時避難所や情報発信拠点となります。
- 2階は、行政部門をワンフロアでまとめ、災害時には首脳部の指示が確実に伝わる計画とします。
- 3階は、議会の独立性を考慮し、議会部門を集約して配置します。



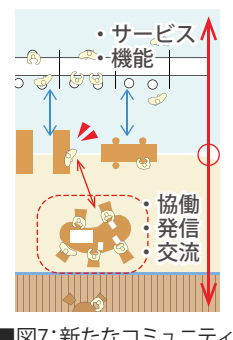
■図5:まちに賑わいを生み出す新庁舎のイメージスケッチ

### 1階:災害時に情報発信が可能な町民協働スペース

- 3方に出入口を計画し、駐車場からのアプローチを容易にします。
- 窓口の待合いと「集いのひろば」の間に、町民協働スペースを計画し、来庁した町民への情報発信や町民同士の対話や交流を活発にする仕組みをつくります。更に、町民協働スペースの東側は開放可能な扉とし、ひろばと一体的な利用を可能にします。
- 町民ラウンジや町民協働スペースは、災害時の一時避難場所として、150人程度の利用が可能な計画とします。



■図6:1F平面計画イメージ



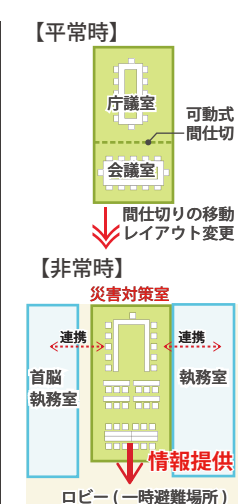
■図7:新たなコミュニティを生み出す1F

### 2階:ワンフロアにまとまった防災拠点フロア

- 首脳エリアに隣接して設けた、災害対策室(庁議室)を中心に窓口以外の行政部門をワンフロアに計画します。



■図8:2F平面計画イメージ



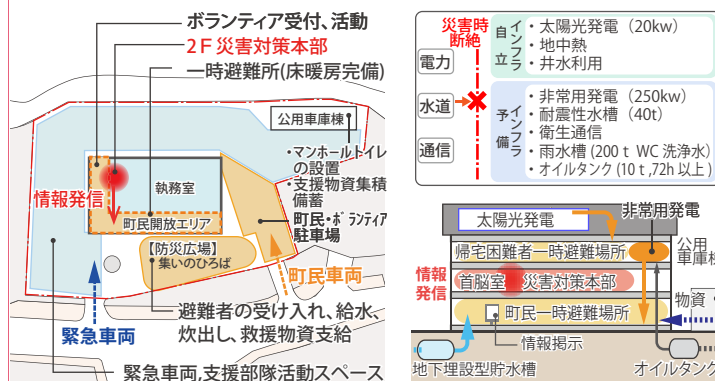
■図9:災害に備えた2F

## 確実に町民の命を守るBCP庁舎

【課題1】:防災対策の拠点としての機能等の整備についての提案  
災害直後から速やかに災害対策や情報収集・発信など、業務継続(BCP)を可能にする、耐震性とインフラを確保します。

### 敷地全体を災害拠点活動スペースとして計画

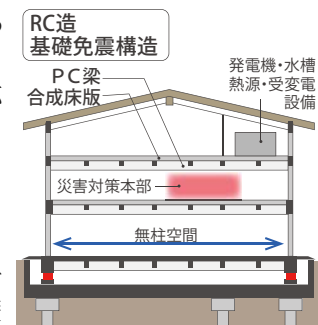
- 東日本大震災の経験を活かし、町民の一時避難、自衛隊や緊急車両スペース、ボランティアや物資受け入れのスペース等、災害時の運用を想定し、設計段階から計画します。
- 1階の町民ラウンジ、町民協働スペースは、災害時でも機能する床暖房により、冬季への対策を行います。
- 水道管直結式による地下埋設型の耐震性水槽を敷地内に設置し、災害時でも新鮮な水を供給します。
- 災害時の情報インフラ寸断に対し、メタル、光回線の他、衛星通信などによる多重化を図ります。



■図12:災害時敷地利用計画 ■図13:バックアップシステム

### 震度7に耐える、免震構造による新庁舎

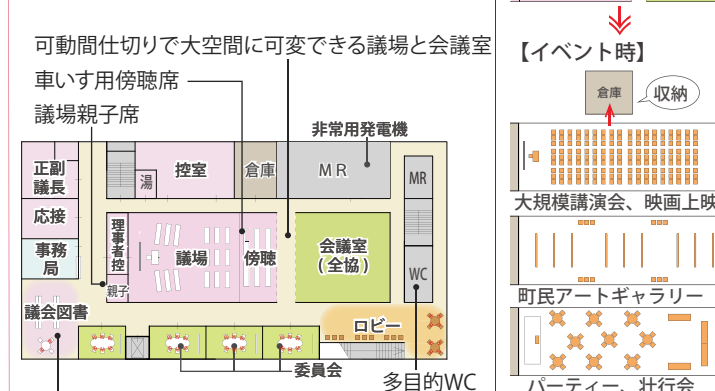
- 庁舎は鉄筋コンクリート造による3階建て基礎免震構造とします。
- 執務室は将来の可変要求に対応できるようにプレストレス梁による無柱空間とします。
- 床は合成床版として工期安定と工事費縮減を行います。
- 鉾物大地石川の強固な地盤を活かし、杭を半固定工法とし、基礎部の耐震性を向上させます。



■図14:構造計画図

### 3階:日常から緊急時まで対応可能な多機能フロア

- 議場は、フラットフロアとし、可動型後壁により、会議室(全員協議会室)と一体となった大空間をつくります。日常は、大きなイベントや式典、緊急時は、自衛隊の受け入れなど、多機能フロアとして計画します。
- 委員会室等の小部屋は、帰宅困難者の一時施設として計画します。



■図10:3F平面計画イメージ ■図11:多機能な3F



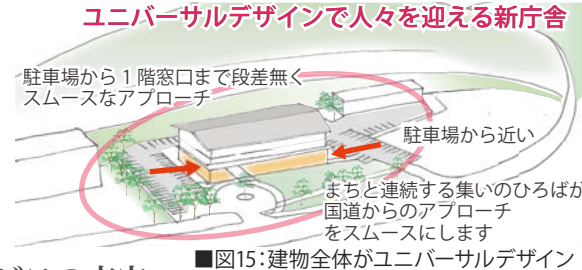
# 低層でワンルームのような空間により、誰でも把握しやすく間仕切りが自由にできる庁舎

【課題2】:すべての人がわかりやすく、社会状況の変化に対応できる庁舎についての提案

シンプルでわかりやすい平面構成、上下が連続するような直通階段を配置した3層の断面構成、迷わせないエレベータの配置など、すべての人がサインに頼らなくても目的の場所に容易に行くことができる計画とします。また執務室内は無柱の空間として、レイアウト変更や間仕切り変更が容易な計画とします。

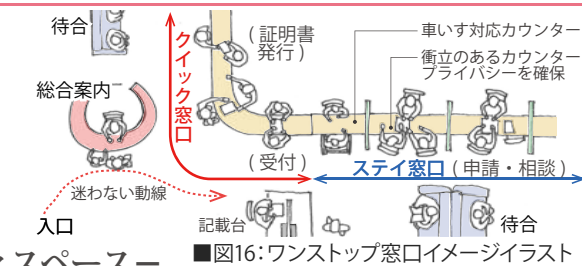
## 町民の移動距離を抑えた1階窓口 -ユニバーサルデザイン-

- ・町民利用の多い窓口は、1階に集約します。駐車場からも近く、段差無く、わかりやすい移動の少ない計画とします。
- ・人によるコミュニケーションやサポートがユニバーサルデザインでは重要です。総合案内の設置など、人によるサービスの充実を図る計画とします。
- ・シースルーエレベータやパウダールーム、授乳室の設置など、女性や子ども連れの来庁者に対して、セキュリティやプライバシーに配慮した計画とします。



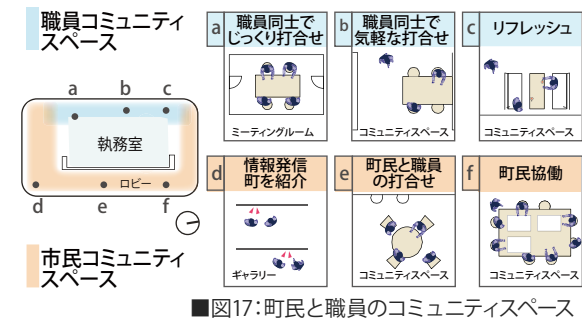
## 町民の目線に立ったワンストップサービス -窓口サービスの充実-

- ・数多くの自治体庁舎の設計経験を活かし、ワンストップ窓口(クイック窓口やステイ窓口)を適正に配置し、最大限町民の利便性を高めます。
- ・衝立のある窓口カウンターや相談室の設置など、町民のプライバシーに配慮します。
- ・車いす対応や杖掛け、明るい照明やわかりやすいサイン計画など、細かい気配りにより、誰にでも使いやすい窓口を実現します。



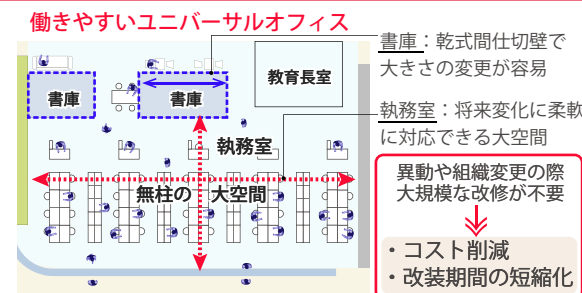
## 町民にも職員にも使いやすい計画 -2つのコミュニティスペース-

- ・町民との打ち合わせは、カウンターの外側(東側スペース)に設けたコミュニティスペースで行い、職員が町民に歩み出る、優しい計画とします。
- ・職員同士の打ち合わせは、執務室内に設けたミーティングスペースを活用し、様々な情報を守りながら打ち合わせが可能な計画とします。
- ・職員コミュニティスペースは、窓口部門のバックヤードや時間外の昼食スペースとしての活用など、多様な勤務ローテーションへの対応を可能にし、職員の働きやすい環境となります。



## 変化する社会に追従できる計画 -フレキシブルに対応-

- ・執務室は、機構改革への柔軟な対応を可能にする無柱大空間とします。
- ・部屋の仕切りは、乾式間仕切壁やパーティションにより可変可能なスケルトン・インフィルの計画とします。
- ・自治体クラウドやIT機能の高度情報化への対応を可能にする、余裕を見込んだ設備スペース・ネットワーク回線などセキュリティ計画を行います。
- ・IT機器の将来増設を見込んだ電気容量の設定を行います。更に非常用電源やUPSの設置など、災害への対応を確実にします。
- ・情報通信の増設が容易なOAフロアー(H=30cm)を採用します。



## 地域や地元、みんなで庁舎をつくります -地産地消-

- ・木造の屋根架構や木の香る温もりある議場、町民ロビーなど、積極的に地産木材を採用し、優しさの溢れる石川町らしい庁舎をつくります。
- ・例えば「中田造林組合」からの良質な木材の活用、町の大工さんによる家具など、まちの資源(人や山林)を積極的に活かす工夫をし、みんなでつくる庁舎を目指します。



### 一議場

・議場は、移動型音響設備や家具など、多目的利用を可能にする計画とします。

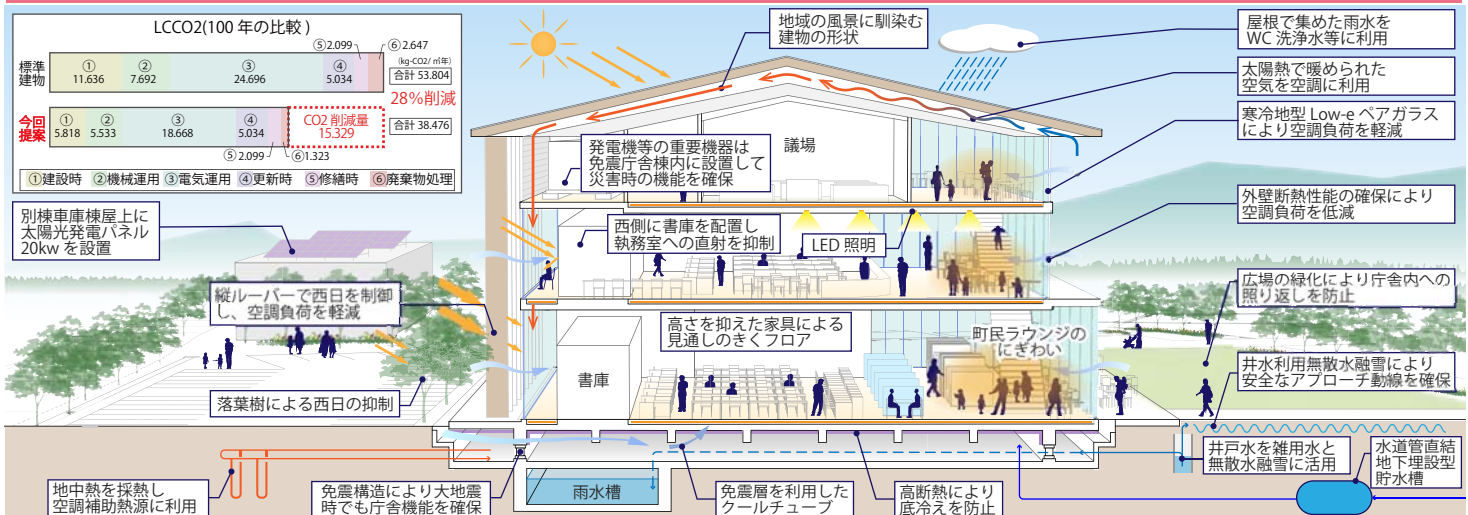


# 地域特性・利用者特性・施設特性の視点から無理のない合理的な環境配慮への工夫を採用

【課題3】:簡素で経済的、環境に配慮した庁舎についての提案

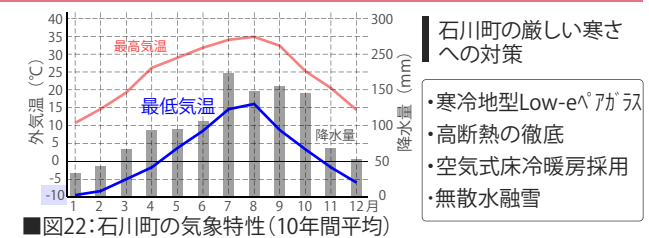
脱原発と地球温暖化防止策のバランスを考慮し、3つの特性からの視点を重視して、LCC(ライフサイクルコスト)25%削減、CASBEE Sランク取得を目指します。

## 循環型エネルギーの活用 -日常のランニングコストを削減-



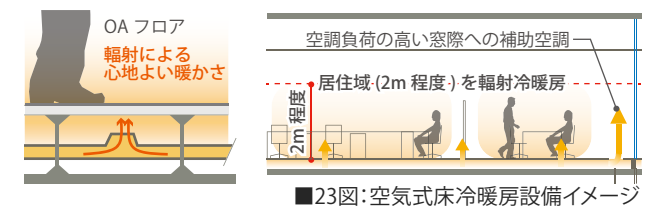
## 季節や時間の変化に即したエコ庁舎 -西日対策など環境を制御-

- ・南北軸の庁舎建築において、西日による環境負荷が最も高くなります。その対策として、執務室が直接西面に接しない平面+縦型ルーバーにより、日射による室温の上昇を防ぎます。
- ・冬季に-10℃以下となる石川町の厳しい気象環境に対し、寒冷地型Low-eペアガラスの採用、高断熱による底冷え防止対策など、十分な対策を行います。



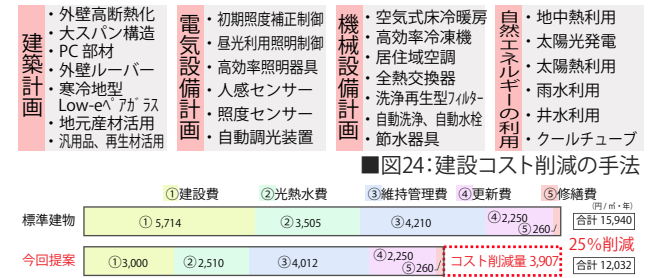
## 人に優しい新庁舎 -空気式床冷暖房設備-

- ・当社にて寒冷地での実績が多く、効果が実証(空気調和・衛生工学会振興賞技術振興賞受賞)された床冷暖房を採用します。このシステムは、居住域を積極的に空調する、空調効率と省エネ効果が高い空調方式で、輻射により人に優しい室内環境を実現します。
- ・内装材は、F☆☆☆☆を採用します。更に、工事完了時にシックハウスの原因となる物質の浮遊量調査を行い、確実にシックハウス物質が無いことを確認します。



## 様々な手法により、ランニングコスト・建設コストを削減 -長寿命な100年建築-

- ・建築面積を必要最小限とし、基礎工事の工事費を軽減します。
- ・大スパン構造により柱の数を最小限とし、免震装置の数を減らします。
- ・執務室の天井高を無駄のない2.8mとし、階高を4.5mで計画します。
- ・汎用品や再生材の活用を検討し、インシヤルコストを削減します。
- ・地元産材を活用し、運搬コストを削減します。
- ・長寿命な100年建築を支える、健全な構造体を設計します。
- ・設備機器の更新を考慮した、機器レイアウトや機器選定を行います。



## 業務実施方針 組織図・工程

### 短期間で高品質な設計

- ・町との連絡窓口の一本化
- ・進捗に合わせたスタッフの増員
- ・庁舎実績、寒冷地での実績が豊富なメンバーによる設計チーム体制
- ・町との打合せの定例化
- ・庁舎180件のノウハウを活かした全社支援体制
- ・詳細なヒアリングによる要望の把握と分析を踏まえた提案

### その他業務実施上の配慮事項

- ・実績のある寒冷地対策の徹底
  - ・免震構造採用による耐震性向上
  - ・コストを削減する建築計画、工法、材料及び設備の選定
  - ・地場産材、地場産業の活用
  - ・庁舎全体をユニバーサルデザインで計画
  - ・花壇や市民ギャラリー等、町民が参画できる施設づくりの提案
- (様式9より抜粋)

